

名古屋葵大学

41号

## 総合科学研究所だより

Research Institute of Integrated Sciences and Humanities

## 巻頭言

総合科学研究所所長 遠山佳治  
TOYAMA Yoshiharu

今年度、学園創立110年を迎え、名古屋葵大学総合科学研究所として新たな船出が始まりました。このような節目に所長として就任し、身の引き締まる思いではありますが、精一杯、尽力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

改めて「総研」での活動を振り返ってみますと、私自身が「総研」に携わったのは、平成15年の運営委員からでした。もう懐かしい思い出となっていますが、当時機関研究「創立者越原春子および女子教育に関する教育」の発足、機関研究「大学における効果的な授業法の研究」を3・教養科目、4・初年次教育、5・学修成果の評価方法とシリーズ化したことです。特に、初年次教育の研究成果は、現在の初年次教育用テキスト「大学で学ぶということ」に繋がりました。また、地域貢献事業では、瑞穂児童館の移転に伴い、オープニングセレモニーの協力のご縁から、瑞穂区との連携事業が実現しました。総合科学研究所としての活動は、その後多くの教職員の努力によって、発展を遂げ、現在に至っております。

特に今年度は、今後の本学園の方向性を見据えながら、既存の学問分野では見出せない境界領域や未開拓なテーマに積極的に挑戦し、新たな学術分野を創出し、研究を推進していくことを重点努力

目標として掲げました。そこで感性工学と文理融合を視点とした新たな機関研究が発足し、いよいよ始動いたしました。

今秋開催予定の総合科学研究所主催大学講演会では、関西学院大学感性工学研究室の長田典子教授を講師として迎え、感性工学についてご講演をお願いしております。詳細は本だよりで掲載しておりますので、ぜひ講演会にご参加をしていただきたいと思います。今、最も旬な感性工学をリードする長田先生のお話を学ぶ機会としていただけると幸いです。

そして、前述の新しい研究領域を中心に、その他の機関研究「幼児教育で育みたい資質・能力に関する研究」や各種プロジェクト研究などにより、先生方のユニークな研究の視点やアプローチを期待し、本学園の研究推進が一層加速されることを願っています。

さらに、地域貢献事業として、本年度も瑞穂区および瑞穂保健センター、瑞穂児童館との連携でより一層発展した楽しいイベント、講習会を予定しております。地域社会の人たちとの交流経験の機会を得るために学生ボランティアを募り、いきいきと活気あふれる事業に繋げていきたいと思っております。

以上、総合科学研究所は研究推進だけでなく、人材育成、地域社会の貢献など重要な役割を担っております。総合科学研究所の発展のために、今後とも、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。最後に、「総合科学研究所だより」は平成17年度に創刊されましたが、環境負荷低減のため、今号より電子媒体の発信とさせていただきます。

令和6年度  
「開かれた地域貢献事業」  
報告

## 若返りきらきらセミナーを終えて

瑞穂区高齢者の介護予防事業として開催された「若返りきらきらセミナー」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年3月に最後の講座を残して中断して以来、約5年6ヶ月ぶりに復活開催されました。

本セミナーは人気の高い事業であるため、令和3年には感染拡大に警戒しつつ再開計画が立てられましたが、残念ながら開催には至りませんでした。

そして満を持して再開された今回の事業では、令和6年8月13日の予約受付開始直後から保健センターの電話が鳴り響き、区民の皆様の関心と期待の高さがうかがえました。

講座は、瑞穂保健センターによる1講座と名古屋葵大学による4講座の計5講座が、9月から月に1回のペースで実施されました。

児童教育学科には、歌いながら身体を動かす「心と身体を元気にする講座」を開催していただきました。この講座には、加齢による口腔機能の低下を防ぐ効果も期待されています。

健康栄養学科からは、高齢者が引き起こしやすい「便秘の改善」

をテーマに、手軽に作れる大学芋のレシピをご紹介いただき、参加者全員で調理実習を行いました。

また、事業休止中に新設された理学療法学科の先生方にもご協力いただき、「転倒やフレイル（虚弱）の解説とその予防法」についての講話のほか、「音楽に合わせた体操」や「自宅等のできる簡単で効果的な運動」の指導も行っていただきました。

参加者からは、「講座がわかりやすくて楽しかった」「回数をもっと増やしてほしい」といった声が多数寄せられました。また、「学生さんが礼儀正しく挨拶してくれるので、気持ちよく講座に参加できた」との感想も聞かれました。

人生100年時代を見据え、今後も名古屋葵大学の皆様と連携しながら、瑞穂区の高齢者の皆様がいきいきと暮らせる地域づくりを目指し、「若返りきらきらセミナー」の継続・拡充に努めてまいります。

瑞穂保健センター保健予防課 植村普学



みずほ体操

令和6年度  
「開かれた地域貢献事業」  
報告

## 名古屋市瑞穂児童館 令和6年度の共催事業を終えて

名古屋市瑞穂児童館 レクリエーションスタッフ 平野 愛

名古屋女子大学の皆様のご協力のもと、瑞穂児童館との共催事業を行うようになって17年が経ちました。長年にわたり地域に根ざした活動を共に実施できることを嬉しく思います。

6年度は幅広い年齢の子どもたちや保護者を対象とした6つの講座とクリスマスイベントを実施し、たくさんの方に参加していただくことができました。

それぞれの事業を振り返ってみますと、「おいしく食べて健康にクッキーを作ろう」は調理に不慣れな子どもでも簡単に作れるよう、先生や学生の皆さんが下準備や工夫をしてくださったのと、大学の設備の整った調理場を使わせていただけたため、のびのびと取り組むことができました。

「お子さんの写真で食卓を彩るカード作り」「ベビーすまいるー離乳期の栄養ー」は乳幼児親子を対象にしており、子育てに役立つ専門的なお話をきいたり、思い出に残るような工作をしたりしました。特に工作の際、「学生さんが子ども達を見守ってくれていて、安心して作ることができた」と参加者からの声もありました。

「ヒノキの楽器トーンタングを作ろう」「ふしぎなうごくおもちゃづくり」では、身近な素材を使ったり、普段は使う機会の少ない工具にふれたり、楽しい制作体験ができました。

児童館としても大きなイベントでクリスマスイベント「うごくおもちゃ」ある「みんなでメリー・クリスマス」は乳幼児向けに加え、小学生向けのプログラムも充実したものになりました。美しいハンドベルの演奏を楽しんだり、パネルシアターや工作・ミニゲームに挑戦したりと盛りだくさんで楽しいイベントとなりました。同じく大きなイベントである「みずほじどうかんまつり」でも「食育相談」「作って遊ぼう」のブースを出していただき、どちらも多くの参加があり盛り上がりしていました。

毎年名古屋女子大学(名古屋葵大学)との共催講座を楽しみにしていただいている方もたくさんみえますので、今後とも地域の皆様に喜んでいただけるような事業としていけるよう、連携・協働していきたいと思ひます。



クリスマスイベント「うごくおもちゃ」

令和6年度  
「開かれた地域貢献事業」  
報告

## 瑞穂区役所共催「子どもと朝ごはんレシピ 瑞穂区ナンバー1決定戦! 2024」を終えて

瑞穂区役所民生子ども課 中谷真紀

瑞穂区役所民生子ども課では、平成30年から名古屋女子大学の皆さまと共催で、働く子育て世帯を応援するための事業を共催してまいりました。

令和6年度は、いざという時のために購入されたローリングストックの食材を使った簡単・手軽で栄養バランスのよい朝食レシピを募集しました。

誰でも30分以内で作れるおいしい朝食レシピを募集し、一次審査を通過された入賞者の方に、名古屋女子大学で開催する最終審査会

で実際に調理をしていただき、ナンバー1を決定しました。

参加者同士作品の試食も行われ、笑顔あふれる企画となりました。

これからも名古屋葵大学の皆さんと連携を深め、瑞穂区の子育て世帯を応援するような企画を実施していきたいと思ひます。



最終審査会の様子

### 機関研究

## 「感性工学を応用した豊かな感性価値の創造的研究」

横山早美代・山鹿隆義・稲木真司・松村哲志・吉田競人・武岡さおり・小町谷寿子・駒形純也・近藤貴子

本研究は、感性工学を応用した豊かな感性価値の創造的研究を目的とし、人間の感性という主観的で論理的に説明しにくい反応を、科学的手法で分析する研究に取り組みます。第1期(令和7年度)は感性工学理論の理解を深めます。第1回会議(7月4日)では生活環境学部(5名)、児童教育学科(1名)、健康科学部(1名)、医療科学部(2名)9名の構成員の参加から、本研究は多様な専門性のコラボレーションによる感性工学研究を目指します。第

2回(9月上旬)、3回(11月下旬~12月上旬)会議を実施、また感性工学の理解を深めるため研究員は事前に感性工学系書籍を輪読し、専門性を生かした感性工学研究を思考する期間とします。第4回(2月上旬)は感性工学を応用した研究内容を検討し、研究チームを編成します。第5回(3月上旬)は各研究チームで第2期(令和8年)に向けての具体的な研究計画を検討、第6回(3月中旬)は各研究計画の報告会を予定しています。

### 機関研究

## 「大学における効果的な授業法11」

一文系志向の学生における科学的思考力を育む授業法の研究

遠山佳治代・橋本侑美・加藤芳司・服部幹雄・内藤紘一・前田舞子・羽澄直子・吉川直志・長谷川隆史

本研究は、今年度の共学化に伴い、本学で学ぶ多くの文系志向の学生に、理系的な論理的思考力・分析力などの科学的視点を加味させる文理融合的な授業を展開できるような目的で、今年度から2年間の機関研究として始まりました。政府による教育未来創造会議では、文理横断教育の推進が提言され、令和6年には日本私立大学連盟から「文理横断教育の実践と推進」の中間報告が発表されました。これらの状況を踏まえ、初年度の研究としては、まず、文理

融合の意味を確認するため、隠岐さやか『文系と理系はなぜ分かれたのか?』(講談社)、江勝弘『理系・文系「ハイブリッド」型人生のすすめ』をテキストとして、理解を深めていきます。そして、文系科目に理系的要素を加味した教育について、研究者個々の授業科目において、具体的に検討していくことを最終目標として、まずは学際的に展開している全国の大学・学部における教育内容を調べ比較検討していきたいと思ひております。

## 機関研究

## 「創立者越原春子および本学園が歩んできた教育に関する研究」

第9期を迎えた本研究は、「創立者越原春子および本学園が歩んできた教育に関する研究」に生まれ変わり、令和7年度～9年度の3年間に研究期間とします。本学の共学化により、研究の範囲が「女子教育」から「本学園が歩んできた教育」へと広がりました。前期の研究内容を参考にしながら、メンバー全員で取り組む共同研究と専門分野に基づいた個人研究を並行して進めていく予定です。共同研究のテーマは「本学の教育における教材の研究」とし、研

山田千聡(代)・河合玲子・遠山佳治・三宅元子・吉川直志・坂本麗香  
究対象とする時代を絞らず、本学園の教育で使用されてきた教材に関する研究を行うことになりました。これまでに実施されてきた学園にまつわる情報の整理を目的とした本学教職員への聞き取り調査も引き続き行う計画を立てています。

新たなメンバーが加わり、それぞれの専門性を活かしながら、学際的な研究を進めていきたいと考えています。

## 機関研究

## 「幼児教育で育みたい資質・能力に関する研究」

本研究会では、幼児教育で育みたい資質・能力に関する研究として、プロジェクト型保育の可能性をテーマに、子どもの主体性を重視した実践的研究を継続しています。本年度は「遊び倒して学ぶ」を目標に掲げ、「園庭遊具開発」「年間行事」「運動能力育成」「食育」「ICT活用」の5つのプロジェクトを展開しています。「園庭遊具開発」では、6月の雨天時に古タイヤ9個を園庭に運び入れ、子ども達の自由な遊びを観察しました。その結果、積み重ねる、水

渋谷 寿(代)・幼児保育研究会  
を入れる、泥で洗う、滑り台から転がす、乗って跳ねるなど、多様で創造的な遊びが生まれ、子どもたちの主体性が育まれる様子が確認されました。他のプロジェクトにおいても、教師主導とならないように留意し、子ども中心・子ども主体の活動を推進しています。今後も子ども達との対話を重ね、意義ある保育内容の探究を続けたいと考えています。

## プロジェクト研究

「生成AIを活用した大学教員の業務効率化と教育支援の実証研究」  
—看護学科業務を対象としたプロンプトの開発と評価—

本研究は、生成AIを活用して大学教員の業務効率化および教育支援を図ることを目的としています。今年度は、看護学科の業務に特化した生成AI用プロンプトを開発し、演習事例の作成、文献レビューの支援、議事録やメール返信文の作成、課題レポートのキーワード抽出に取り組んでいきます。これらの業務に対して、生成AIが実用的かつ効果的に活用できるよう、プロンプトの構成や表

中神克之(代)・大竹美紀・土屋裕美・松田麗子  
現方法を工夫しながら開発と改善を進めていきます。さらに、開発したプロンプトの適用効果を検証し、精度の向上と実践的な活用方法の整理を行っていきます。なお、メール返信文の作成に関する取り組みについては、9月のなごや看護学会学術集会で発表を予定しています。

## プロジェクト研究

「鉱石ホットパック(乾熱法)の温熱効果に関する基礎的研究」  
～他のホットパックとの比較及び、生体への適応～

本研究は、鉱石を用いたホットパックの効果を検証する継続研究です。第1段階の模擬生体を用いた調査に続き、今回は、鉱石ホットパックに特有な効果かどうかを、ハイドロコレータパックや電子レンジホットパックと比較し、ファントムでの温度変化を測定します。また、実際の生体に適用した際の皮膚温度変化も比較します。

荻原久佳(代)・岡田 誠・松林義人・横田 龍(葵会仙台病院)・森下勝行(城西国際大学)  
現在、皮膚とホットパックの間にタオルを重ね、皮膚接触面の温度を揃える予備実験を行っており、今後は、その結果を基に比較測定を行います。

これらの結果から温熱療法の適切な使用方法を確立し、講義や演習資料として活用することを目指します。

## プロジェクト研究

## 「児童・思春期病棟での精神看護学実習における学びとその効果」

児童・思春期精神科では、初診待機者が一定数存在しており、その要因の一つに、児童・思春期精神医療に関する専門職の不足が挙げられます。将来的な人材確保には、看護学生の関心を高めることが重要ですが、児童・思春期病棟での実習が学習に与える効果についての知見は乏しいのが現状です。本研究では、精神看護学実習を

鈴木雪乃(代)・新井信之・山本通栄  
経験した看護学生および児童・思春期病棟の看護師を対象に質問紙調査を実施し、実習の教育的効果を明らかにすることを目的としています。名古屋葵大学倫理審査(承認番号2024-23)を経て、実習病院の研究承諾と令和6年度実習生からの同意を取得し、質問紙調査を開始しました。今後、得られたデータを分析する予定です。

